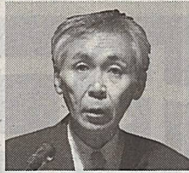


鉄筋の防錆が焦点

J C M A 小規模橋向け要領作成

十河氏が講演



徳納会長

ム2019（東京会場）を開いた。会場には診断・補修業務を専門とするゼネコンや補修材メーカー、発注官庁など約1200人が参加



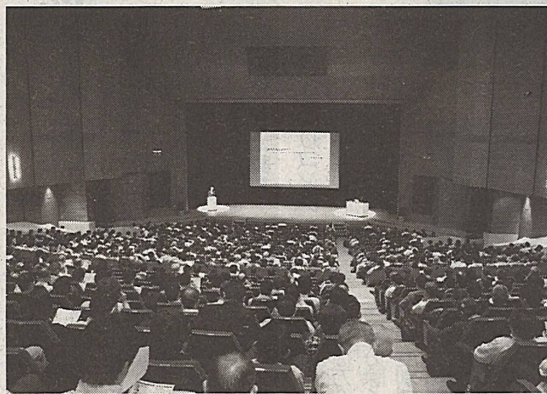
十河氏

構造物の健康寿命を延ばすための維持管理の

考え方に関する基本概要、最新の調査診断と適切な維持管理技術を紹介する」と述べ、特に鉄筋防錆に焦点を当

長寿命化のための点検要領について、近未来コンクリート研究所の十河茂幸代表が講演した。十河代表は2m

未満の小規模橋梁を含めると約100万橋があり、道路橋の75%が市町村管理のため、小規模橋梁の予防保全が今後の力キになると指摘した。そのうえで、少子高齢化時代の公共



1200 人が参加した

サービスとして「早めの措置が効果的」であり、コンクリート構造物の予防保全を早めに促すことでコスト削減が進むとし、JCM Aと近未来コンクリート研究会が共同で作成し、

点検要領の活用について河氏は「初版は試行が目的」とし、実務の中で順次改善していくとした。また、小規模橋の管理者と協働することを計画している。

合、劣化メカニズムとして原因、劣化進行、性能低下を解説し、コンクリート補修工法の選定で一般的な工法と要求性能について事例を交えて説明した。補修工法の選定方法は劣

リート構造物の補修・補強について」の題で講演したほか、各種補修工法について協会関係者が説明した。

同フォーラムは全国各地で5～9月にかけて開催されている。今

JCMIAの江良和徳技術委員長は「維持管理シナリオを考慮したココンクリート補修の考え方」の題で講演。ココンクリートの劣化について「塩害」「中性化」「アルカリシリカ反応（ASR）」の3つのメカニズムを解説し、ココンクリート補修の基本的な考え方を説明した。例えば、塩害の場合「断」の3点を挙げた。

化メカニズムと劣化の程度に応じて工法を選定するとし、「劣化が生じている原因」、「次の劣化過程に進行させないためのポイント」を把握し、今後どのように維持管理していくのかを考えながら補修工法を選定すべきとした。

京都大学の宮川豊章
特任教授が「コンク

後仙台(6月27日)
日・高松(7月5日)
岡山(7月18日・福岡
(7月23・24日)・沖縄
(8月1日)・名古屋(8
月20日)・新潟(8月30
日)・札幌(9月5日)・
高知(9月19日)・熊本
(9月26日)で行う。参
加費は無料。会場や参
加方法はJCM Aホー
ムページに記載されて
いる。

THE CONCRETE SHIMBUN

コンクリート製品・診断補修・学協会